

# 令和2年度渡島地区の研究活動

研修部副部長 森町立鷺ノ木小学校  
校長 三上 幸喜

## 1. はじめに

渡島小中学校長会は、渡島管内1市9町の公立小中学校に所属する60名の会員で組織されている。

渡島小中学校長会では、子どもたち一人一人の学力の向上に加え、基本的な生活習慣の基盤づくり、全ての活動の源である豊かな心や体力の向上など、各学校における具体的な実践と指導の充実を図るとともに、学ぶことと社会とのつながりを意識し、学びの質や深まりを重視した教育の在り方を一層進化・深化させることを研究課題として、年1回の渡島小中学校長会研究大会を実施している。

＝学力向上交流研修会より 10月13日＝

また、渡島小中学校長会では、管内を3ブロックに分けブロック研究、ブロック研究大会を実施している。更に、今日的な課題に関する研究として、「子どもたち一人一人の学力の向上」を目的として、学力向上交流研修会を年1回実施している。



## 2. 研究計画

### (1) 研究の方針

- ①学校経営及び教育活動の交流を図ることを通して、豊かな人間性を育てる教育課程の編成に努めるとともに、市町及び地区ごとの研修を一層活性化し、その交流を図りながら、成果を管内的に積み上げ集約していく。
- ②道小研究大会、全連小研究協議会及び道中研究大会、全日中研究協議会への積極的な参加を図り、その成果を管内教育の深化・充実に生かすように努める。

### (2) 研究主題

- ①基本主題（令和2年度策定 17期2か年継続研究）

「未来を切り拓き 豊かな社会を創り出す日本人を育成する渡島小中学校教育」  
～ ふるさとを愛し ともに支え合い 新しい時代を担う学校経営の推進 ～

- ②ブロック研究課題

- ㊦研究課題1 「社会に開かれた教育課程」を進める学校づくりはどうあるべきか  
・令和2年度 学校や地域の特色を生かした教育課程の編成・実施と校長の在り方
- ㊧研究課題2 「カリキュラム・マネジメント」を進める学校づくりはどうあるべきか  
・令和2年度 「カリキュラム・マネジメント」を充実させる人的・物的な体制の確保と校長の在り方
- ㊨研究課題3 「主体的・対話的で深い学び」を進める学校づくりはどうあるべきか  
・令和2年度 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業の質の向上を推進する校長の在り方
- ㊩課題別研究1（小学校部会）  
・自立や共生の実現に向けた特別支援教育と環境教育の推進における校長の在り方  
【令和2～3年度 研究の視点】

- ・特別支援教育の理念を生かした学校経営の推進における校長の在り方
- ・自立と共生の実現に向けた特別支援教育の理念を生かした学校経営の実践と充実における校長の在り方

### (3) 研究推進と事業計画

#### ①研究推進

- ㊦全会員が研究主題を自らの課題としてとらえることが大切であることから、渡島管内のそれぞれのブロック毎に研究課題を担当し、研究実践を行う。
- ㊧研究期間は令和2年度から令和3年度の2か年とし、ブロック固定の研究とする。
- ㊨研究の進め方については、2か年継続研究の計画に基づき、ブロック研究を進め、2つの研究の視点を盛り込み、方向性を十分検討し、推進計画を立てる。各ブロックでは、課題の現状や解明の必要性を明確にし、その改善の方策や実践を具体的に提示する。各校長は、研究課題に基づいて、自校の課題とその解決のための経営実践、評価・改善について学校経営の視点でまとめ、ブロック研究大会にレポートとして示す。ブロック研究大会における研究協議を通して研究課題の究明を行い、ブロックで深めた課題や成果をまとめて渡島小中学校長会研究大会で提言する。
- ㊩研修部の課題別研究は、小学校部会と中学校部会に分かれて組織的、計画的に研究を推進する。小学校部会においては道小研究大会の令和2・3年の提言発表に向けて、意図的・計画的に準備を推進していく。

#### ②事業計画

- ㊦企画・調整に関すること…研修部所管事業の推進
- ㊧課題研究推進に関すること…課題別研究の推進及び提言発表、道小・全連小の研究に関すること
- ㊨ブロック研究に関すること…ブロック研究の推進及び研究大会の運営・推進
- ㊩広報に関すること…研修部通信及び研究大会開催要項、研究紀要の編集と発行

### 3. 研究活動の概要

- (1) 全連小各種委員会調査への協力
- (2) 渡島小中学校長会「研修部通信」の編集と発行(7月)
- (3) 渡島小中学校長会ブロック研究大会(8月24日)3ブロック毎に開催(本年度中止、各校の実践レポートをブロック事務局へ提出)
- (4) 令和2年度 第63回 北海道小学校長会教育研究オホーツク・北見大会 提言発表(9月11・12日:本年度中止、紙上提言)
- (5) 学力向上交流研修会(10月13日)今日的な課題に関する研修会
- (6) 第72回全国連合小学校長会研究協議会京都大会参加(10月28・29・30日:本年度中止)
- (7) 渡島小中学校長会研究大会(11月14日:本年度中止、紙上交流会)
- (8) 渡島小中学校長会研究大会研究紀要の編集と発行

### 4. おわりに

4月30日(木)、新型コロナウイルスの感染拡大防止措置のために臨時休業が続く中、北海道教育委員会小玉教育長は就任あいさつの中で「“学びを止めない、心が近づく環境”を整えることが重要」と述べられた。そして、新型コロナウイルス感染症対策が長期化する中、私たち渡島小中学校長会は、21世紀を心豊かにたくましく生きる日本人の育成を目指し、第17期2か年継続研究を策定した。

この継続研究を貫く大きな柱は「校長の在り方・かかわり方(関与性)」である。校長がリーダーシップを発揮し、学校改善を力強く推し進めるとともに、校長自らが日々の研鑽と横の太いつながりを生かし、支え合う連携こそが大きな「渡島の力」となっていくものと考え、「**オール渡島**」をキーワードに、より一層の連帯意識をもって取り組むことを決意した。